

漁港漁場月報

平成24年11月15日 発行
毎月 1回15日発行
編集兼 社団法人 全国漁港漁場協会
発行人 田中 潤児
東京都港区赤坂1-9-13三会堂ビル8階
電話 東京(5114)9981
定価 1部 70円
(会員の購読料は会費の中に含む)

第63回全国漁港漁場大会

in
青森

全国から2000人が参加

第 63 回全国漁港漁場大会



青森県で開催した全国漁港漁場大会

長（代理・重義執行事務理事）、服部郁弘（全国豊かき海づくり推進協会会長）がそれぞれ祝辞を述べた。

祝辞の後、三村伸吾青森県民の歓迎の言葉を、青山祐治青森副知事より披露された。

また、議事に入る前に司会者より、速來の来賓で第40回大会から歴代の会長が大会に出席している特殊法人韓國漁村漁港協會の房奇煥會長をはじめ多数の来賓が出席していることを紹介した。

議事に入り、正副議長の選出を行い、議長に越



提言案を朗読する熊谷ヒサ子氏

議長の越善靖夫氏（右）と副議長の中畑保一氏

長 大西勝也	漁港漁業協会 会長 川島 誠 串本町市長 が提案理由を 説明し、ついで に議案 に關連した取 組事例として ・高知県黒潮 町の取組み ・黒潮の地震 津波防災計画 の基幹的な考 え方（「発 表者 黒潮町	の三例の発表後 採決に入り、本 義案は満場一致 で議決された。 議長の指名に より、熊谷と辻 子青森県漁協女 性組織協議会会 長が、議決され た内容をとりま とめた提言案を 朗読し、満場の 賛同の拍手によ り採決された。	部 長 氏 沼口輝満
--------	--	---	---------------

第63回全国漁漁場大会(主催：財団法人全国漁漁場協会)後援：青森県、青森市、八戸市、平内町、深浦町、東通村、青森県漁業協同組合連合会、協賛：全国漁漁場海岸防協会は、財わつ小川原地域・催された。

財(財)全国豊かな海づくり推進協会会長、重義行(株)日本水産会、事務局長、房奇、特殊法人韓国漁村漁港協会会長をはじめ多くの来賓と全国から漁漁場関係者約2,000人の参加を得て盛大に開催された。

開関係者の総意をもって提言、関係者等に対する提高を採択し、その実現のため要請行動を行うことを決めた。

大会は午前10時に奈良岡修一(青森県漁漁場協会理事、八戸市市長)の挨拶から始まり、

催者挨拶に移った。来賓挨拶に移り、最初に橋本牧漁漁場整備部長が郡司彰農林水産大臣の祝辞を代読した。続いて小川勝也参議院農林水産委員長の祝辞が農林水産部により披露された後、白須敬朗(出)日本水産会会長の祝辞が、最初に善清夫(青)東通漁場協会会長(青森県漁協)副議長(中畑保一愛媛県漁漁場協会会長(愛媛県議会議員)を演出した。越後善清の進行で議案の審議に入る、議案「漁港・漁場・漁村・海岸整備の促進に関する件」に設計を旨とした宿理の整備」(八戸市副市長奈良岡修一氏)の取組み「アラ」三重県鳥羽市の藻場再生「アラ」挑戦」(「発表者 鳥羽磯部漁

理を目指した荷さばき
設の整備」＝（発表者

合連社会会長の連名により、提言書を作成し、政府及び各都道府県の地元選出国会議員等に働きかけ、提言事項の実現に努めることとして社会長の賛同を得て議事を終了した。

最後に吉田満、青森県

提言

水産業に従事し漁村に暮らす我々は、先人から受け継いだ恵み豊かな海の自然環境を護り多様な生態系を育みながら、国民に安全で良質な水産物を安定的に提供することにより健康的で豊かな日本の食文化を支えてきました。

こうしたとき、東日本大震災により東北地方を中心とした太平洋沿岸地域に壊滅的な被害が発生しました。被災地の復旧・復興は未だ道半ばであり、総力をこめて挙げて本格的な再生・復興を急がなければなりません。また、近い将来発生が懸念されている大規模地震・津波による災害、これまで経験したことのない大型台風・集中豪雨等の多発による災害に備えて、人命を守ることを第一とした防災対策を緊急に講ずる必要があります。

一方、水産業においては、安全・安心かつ新鮮という水産物に対する消費者のニーズに応えていくこと、品質及びコストの面で国際競争力を高めていくことと、更には漁場の生産力の向上により水産資源の回復を図るための水環境の改善や豊かな生態系の回復が待たなしの状況となっています。

我々は、今後とも漁場や干潟の保全と再生、漁獲物の高付加価値化や低コスト化を目指す。漁業の推進、魚介類をはじめ様々な地域資源を活かした産地水産物の推進などに取組む。我々に課せられた役割を果たしていくことを誓うとともに、国民の「雇われ理解」と共感のもと、我々の取り組みを力強く支える左記の事項が実現されることを強く要望いたします。

記

一、東日本大震災で被災した漁港・漁場・漁村の早期かつ計画的な復旧・復興及び全国の漁村の生活と水産業を守る防災・減災対策の推進

一、安全・安心で新鮮な水産物の安定供給に資する漁港の衛生管理対策と老朽化対策の推進

一、水産資源の回復 増大のための豊かな生態系を目指す水産環境整備の推進

一、漁業者等が取り組む水産業・漁村の多面的機能発揮のための活動に対する支援や産地水産業の強化を通じた水産業・漁村の活性化の推進

平成二十四年十月二十五日

第六十三回全国漁港漁場大会

主催者挨拶

社全国漁港漁場協会 会長 田中潤児

第63回全国漁港漁場大会の開会に当たり、ご挨拶申し上げます。全国から多くの皆さんにご参加を頂き、このように感謝申し上げます。

特に、公務ご多忙のなか、横山北斗衆議院議員、木村太郎衆議院議員、田名部匡代衆議院議員の国会議員の皆様、橋本牧水産庁漁港漁場整備部長、服部郁弘全国豊かな海づくり推進協会会長（全国漁業協同組合連合会会長）、重義行 大日本水産会専務理事、そして房奇韓韓国漁村漁港協会会長はじめ多くのご来賓のご臨席を賜り、盛大に大会を開催出来たことは、主催者として誠に誠に光栄に存じております。

この青森県での大会は、昨年に開催を予定しておりました。東日本大震災のため一年延期いたしました。東日本大震災の被災地を支援するため、このように開催することが出来た。この間、三村申吾青森県知事を始めとする青森県、ご後援を頂いた関係市町村、青森県漁業協同組合連合会及び漁業団体、そして青森県漁港漁場協会の皆様には大変お世話になりました。このように、御礼申し上げます。

昨年の漁港漁場大会は延期いたしました。が、数次に亘る補正予算の編成、震災を踏まえた平成24年度予算の編成、新たな漁港漁場整備長期計画の策定など水産部等の整備を巡る状況が、大きく動いてきた。このことから、急遽、日に来る漁港・漁場・漁村を良くする全国集会を開催して要請した。このように、この大会で議論される内容や取り組みの重要性について各方面に強力に訴えて、必要な施策が講じられるよう努めて参る所存です。



すなわち、我々としても提言等の活動を積極的に行い、水産業や漁村の発展に政策に反映されるよう努力し、安心して漁業を営み生活が出来る漁港・漁場・漁村を目指してまいりたいと考えております。特に、本日この大会で議論される内容や取り組みの重要性について各方面に強力に訴えて、必要な施策が講じられるよう努めて参る所存です。

併せて、水産業漁村の重要な役割について国民の皆さんの理解と支持を深めるための啓発普及活動や、漁村活性化、環境保全などの課題に積極的に取り組んでいくことも重要となっております。

ここにお集まりの皆様は、日頃から水産業、漁村の発展に大変ご努力されておられます。日本の水産業が魅力ある産業として大いに発展し、将来に希望が持てる豊かな漁村が実現することを目指して、皆様の一層の団結とご尽力をお願い申し上げます。開会の挨拶と致します。

我が国の水産業、漁村を取り巻く環境が一段と厳しさを増

祝 辞

農林水産大臣 郡司 彰
代読 水産庁漁港漁場整備部長 橋本 牧



本日ここに、全国漁港漁場大会が開会されるに当たり、一言御挨拶を申し上げます。

本大会は、漁港・漁場・漁村の総合的整備と漁港の合理的利用の促進を目的として開催され、昭和24年の第一回大会以

祝 辞

参議院農林水産委員長 小川 勝也

メッセージ

第63回全国漁港漁場大会の開会、おめでとうございます。

本日ご臨席の皆様は、はじめ、漁港・漁場・漁村の整備に日頃よりご尽力を頂いており、関係者の方々に対し、衷心より敬意を表しますとともに、厚く御礼申し上げます。

また、資源管理・漁業所得補償対策等の取組と連携して、水産動植物の生態環境の改善、良好な漁場づくりを進めていく必要があると考えています。

私は、こうした課題に取り組みするため、十分な水産公共予算を確保し、基盤整備

ことは、申すまでもございませぬ。併せて、漁港における衛生管理対策の推進は、消費者の我が国水産物に対する信頼を確保し、海外輸出を促進するためにも不可欠であります。私は、皆様のこの決意を踏まえ、よりよい漁港・漁場・漁村の建設のために、国会において活発かつ有意義な議論が行われるよう、全力で取り組んでまいります。

最後に、本大会のご成功と、皆様方のご健康、ご活躍をお祈り申し上げます。

会場風景

全国から20000人が集まった



続々と集まる参加者



東日本大震災の被災状況の写真展示



日本郷土芸能研究保存会の皆さんによる龍神太鼓

来、本年で63回を迎えることとなり、本日の間の、本日の御出席の皆様方の漁港・漁場・漁村の整備を通じて水産業の振興と漁村の発展への多大なる御尽力に対し、深く敬意を表する次第であります。

さて、昨年発生した東日本大震災は、人々が営々と築き上げてきた漁港や漁業集落に深刻な損害を与え、地域の水産業に未曾有の被害をもたらしました。被災地に強い地域作りの急務となっており、東日本大震災の経験をしつかりと生かしてまいります。

さらに、政府といたしましては、本年三月に閣議決定した水産基本計画及び漁港漁場整備長期計画に基づき、漁港・漁村の防災・減災対策を推進するほか、資源管理・漁業所得補償対策の推進、H A C C P等の衛生管理の徹底、水産業・漁村の多面的機能の発揮といった課題に重点的に取り組んでまいります。

結びに、今後ともこれらの水産施策への御協力をお願いするとともに、本大会の成功と、我が国水産業の益々の発展、本日御出席の皆様方の御健勝を祈念いたしまして、私の挨拶といたします。

祝 辞

(社)大日本水産会会長 白須敏朗

代読 専務理事 重義行

本日は第63回全国漁港漁場大会が、日本有数の水産県である青森県で盛大に開催されますこと、心からお祝い申し上げます。昨年は東日本大震災の關係から開催が中止を余儀なくされたこととなり、被災された地域も全国の国民の支援、政府の大きな復興予算の手当などにより、現在それぞれ、着実に復興の道を歩まれています。



ここ青森県におかれ、漁港、水産関係者など沿岸の地域が大きな被害を受けられましたが、今漁業者の皆さんや水産関係者の方々が一体となって漁港、漁場、漁村、漁船、市場、水産加工場など生産の場、生活の場の回復に懸命に努力されておられます。先ずはこのことに敬意を表したいと思います。大日本水産会といたしましては、全国の水産関係者とともに引き続き地元の皆様のご努力を支援し、上げることをお願いします。

申し上げたいと思います。さて、今回の大震災の被災を受けて、改めて明らかになったのが、漁港の水産地域に於ける重要な役割です。漁港がまさに生産の中心であることが水産関係者のみならず、国民の皆さんにもご理解頂きたい。沿岸地域の生活・生産の中心の場所は、漁港であり、漁場であり、これらの復活無くしては東北の沿岸地域の復興はないことが、報道などで喧伝され、漁港や漁場がいかに大切なものかということが世間に認知され、これにより漁村に対する多くの支援の輪が広がりました。また、東北の水産関係者の皆さんが大変厳しい環境の中、消費者に美味しい魚を届けたいとの思いで、必死になって漁の再開、漁港・市場の再開、さらに水産加工場の再開にご努力される姿を見、全国の水産関係者も改めて、国民消費者に対する水産物の安定供給という我々の使命を再認識いたしました。

昨日、景気の低迷にとともに魚価安や魚離れといった消費の落ち込みなど水産業界にとって厳しい話題も少なくない環境ですが、我々水産関係者の原点は美味しい魚、水産物を消費者の皆さんにお届けするために全国の仲間が額に汗して頑張るところではないかと思っています。そのような中、完成目前に大震災で被災したHACCP対応の八戸市場の荷さばき場が一年半の復旧作業を経てこのほど完成したことは、安全安心な水産物を供給するうえで大きな力となるものであり、大変うれしく思います。また、世界に目を向ければ健康志向から水産物の需要は高まっており、ますます、国内でも高齢者が大きく、年齢人口が多くなる中、高齢者のための健康を支えるのは水産物であります。

歓迎のことば

青森県知事 三村申吾

代読 青山祐治 青森県副知事

第63回全国漁港漁場大会が、ここ青森において盛大に開催されますこと、心からお喜び申し上げます。また、全国から御来県の皆様を心から歓迎申し上げます。



漁場協会の田中会長さんをはじめ、開催に当たり御尽力された関係者の皆様、深く敬意を表します。さて、本県は、太平洋、日本海、津軽海峡と中央部の陸奥湾の豊かな漁場に恵まれた、我が国に数少ない水産物であり、陸奥湾のホタテガイ生産や、サケ・ヒラメ、アワビなどの種放流、さらには、ヒラメ・カレイなどの漁獲管理など、つくり育てる漁業、ともに「資源管理型漁業」が推進されています。

漁港漁場施設は、こうした取組を支える社会基盤であるとともに、水産物の安定供給を図る重要な役割を担っており、本県でも、計画的に整備してきたところ。そのような中、昨年の東日本大震災により、県内18箇所の漁港で防波堤が転倒するなど甚大な被害が生じましたが、水産庁をはじめ関係者の御協力により、早期の復旧に取り組み、年内には全ての漁港の復旧が完了する見込みと

祝 辞

(社)全国豊かな海づくり推進協会会長 服部郁弘



本日に、第63回全国漁港漁場大会が開催されるにあたり、社団法人全国豊かな海づくり推進協会を代表して一言お祝いを申し上げます。さて、東日本大震災の発生から一年半余りが経過しましたが、大震災からの水産業の復旧・復興は、国民への安定的な水産物供給を確保する上でも極めて重要な課題であり、被災地域における水産業再生への懸命の取り組みが続けられています。ご支援を賜っており、ますます皆様に深く敬意を表する次第です。

一方、東京電力福島第一原子力発電所の事故は我が国水産業に甚大な影響を与えており、福島県での本格操業再開への道筋は未だ見えず、こうした中、今年

近隣県でも操業自粛が続く魚種が存在している状況にございます。さらに放射線物質の風評被害問題による水産物流通や漁業操業への深刻な影響は皆様ご承知の通りでございます。今後とも国民の皆様との理解と信頼を得ながら、全漁連会長として国への働きかけなどしっかりと対応してまいります。また、水産資源の回復・増大のため、藻場や干潟など豊かな生態系を維持するための水産環境整備の推進や、老朽化した各地の種苗生産施設や漁港諸施設の維持に向けた補修・整備の取り組みは、今後ともますます重要なところであると考えています。

さらに、漁業資源の持続的な利用を図るため、漁業関係者は栽培漁業の推進や資源管理の努力を続けていくところでありますが、併せて

なっています。また、昨年策定した「青森県復興ビジョン」に掲げる創造的復興に向けて、地震・津波対策として岸壁の耐震化など、漁港施設の機能強化や避難施設の整備のほか、漁場の機能回復のための藻場造成にも取り組んでいます。

被災地である青森県で開催される本大会を契機として、こうした震災の教訓を踏まえた漁港・漁場・漁村の整備が今後いつそ促進されることを心から御期待申し上げます。折しも、県内は紅葉真っ盛りです。是非この機会に、世界自然遺産白神山や十和田湖・奥入瀬渓流をはじめとする美しい自然を御散策いただき、水産物の安定供給を図る重要な役割を担っており、本県でも、計画的に整備してきたところ。そのような中、昨年の東日本大震災により、県内18箇所の漁港で防波堤が転倒するなど甚大な被害が生じましたが、水産庁をはじめ関係者の御協力により、早期の復旧に取り組み、年内には全ての漁港の復旧が完了する見込みと

水産基盤整備に力強い支援を

鹿児島県漁港漁場協会 会長 田畑誠一

提案理由説明

皆さんおはようございます。青森県漁港漁場協会をはじめ関係者の皆様をお集りいただき、第63回全国漁港漁場大会が、雄大な自然に包まれた人々の働き、人情あふれる街、この青森の地において、このように盛大に開催されますこと、心からお喜び申し上げます。



提案理由

第63回全国漁港漁場大会が、雄大な自然に包まれた人々の働き、人情あふれる街、この青森の地において、このように盛大に開催されますこと、心からお喜び申し上げます。

第63回全国漁港漁場大会が、雄大な自然に包まれた人々の働き、人情あふれる街、この青森の地において、このように盛大に開催されますこと、心からお喜び申し上げます。

第63回全国漁港漁場大会が、雄大な自然に包まれた人々の働き、人情あふれる街、この青森の地において、このように盛大に開催されますこと、心からお喜び申し上げます。

第63回全国漁港漁場大会が、雄大な自然に包まれた人々の働き、人情あふれる街、この青森の地において、このように盛大に開催されますこと、心からお喜び申し上げます。

第63回全国漁港漁場大会が、雄大な自然に包まれた人々の働き、人情あふれる街、この青森の地において、このように盛大に開催されますこと、心からお喜び申し上げます。

第63回全国漁港漁場大会が、雄大な自然に包まれた人々の働き、人情あふれる街、この青森の地において、このように盛大に開催されますこと、心からお喜び申し上げます。

第63回全国漁港漁場大会が、雄大な自然に包まれた人々の働き、人情あふれる街、この青森の地において、このように盛大に開催されますこと、心からお喜び申し上げます。

第63回全国漁港漁場大会が、雄大な自然に包まれた人々の働き、人情あふれる街、この青森の地において、このように盛大に開催されますこと、心からお喜び申し上げます。

高知県黒潮町長 大西勝也



大西町長

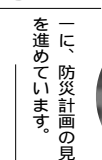
高知県黒潮町は、沖の海底には、南海トラフという深い溝があり、1000～1500年周期で大きな地震が繰り返されています。南海トラフ地震は避けて通れない、揺れたら逃げる。より早く、より安全な避難道を整備する必要があります。

高知県黒潮町は、沖の海底には、南海トラフという深い溝があり、1000～1500年周期で大きな地震が繰り返されています。南海トラフ地震は避けて通れない、揺れたら逃げる。より早く、より安全な避難道を整備する必要があります。

高知県黒潮町は、沖の海底には、南海トラフという深い溝があり、1000～1500年周期で大きな地震が繰り返されています。南海トラフ地震は避けて通れない、揺れたら逃げる。より早く、より安全な避難道を整備する必要があります。

高知県黒潮町は、沖の海底には、南海トラフという深い溝があり、1000～1500年周期で大きな地震が繰り返されています。南海トラフ地震は避けて通れない、揺れたら逃げる。より早く、より安全な避難道を整備する必要があります。

青森県八戸市副市長 奈良岡修一



奈良岡副市長

青森県八戸市は、市場機能の集約とEUへの輸出に対応したハサップによる高度な衛生管理を旨とした荷さき施設の整備を推進しています。

青森県八戸市は、市場機能の集約とEUへの輸出に対応したハサップによる高度な衛生管理を旨とした荷さき施設の整備を推進しています。

青森県八戸市は、市場機能の集約とEUへの輸出に対応したハサップによる高度な衛生管理を旨とした荷さき施設の整備を推進しています。

青森県八戸市は、市場機能の集約とEUへの輸出に対応したハサップによる高度な衛生管理を旨とした荷さき施設の整備を推進しています。



黒潮町の避難道

黒潮町の避難道は、沖の海底には、南海トラフという深い溝があり、1000～1500年周期で大きな地震が繰り返されています。南海トラフ地震は避けて通れない、揺れたら逃げる。より早く、より安全な避難道を整備する必要があります。

黒潮町の避難道は、沖の海底には、南海トラフという深い溝があり、1000～1500年周期で大きな地震が繰り返されています。南海トラフ地震は避けて通れない、揺れたら逃げる。より早く、より安全な避難道を整備する必要があります。

黒潮町の避難道は、沖の海底には、南海トラフという深い溝があり、1000～1500年周期で大きな地震が繰り返されています。南海トラフ地震は避けて通れない、揺れたら逃げる。より早く、より安全な避難道を整備する必要があります。

黒潮町の避難道は、沖の海底には、南海トラフという深い溝があり、1000～1500年周期で大きな地震が繰り返されています。南海トラフ地震は避けて通れない、揺れたら逃げる。より早く、より安全な避難道を整備する必要があります。

黒潮町の避難道は、沖の海底には、南海トラフという深い溝があり、1000～1500年周期で大きな地震が繰り返されています。南海トラフ地震は避けて通れない、揺れたら逃げる。より早く、より安全な避難道を整備する必要があります。



八戸漁港の施設

八戸漁港の施設は、市場機能の集約とEUへの輸出に対応したハサップによる高度な衛生管理を旨とした荷さき施設の整備を推進しています。

八戸漁港の施設は、市場機能の集約とEUへの輸出に対応したハサップによる高度な衛生管理を旨とした荷さき施設の整備を推進しています。

三重県鳥羽市鳥羽磯部漁協 答志支所青壮年部 浜口輝満



浜口氏

三重県鳥羽市鳥羽磯部漁協 答志支所青壮年部 浜口輝満は、アラム藻場再生への挑戦を推進しています。

伊勢湾口部に位置する 答志支所青壮年部 浜口輝満



アラム藻場再生への挑戦

伊勢湾口部に位置する 答志支所青壮年部 浜口輝満は、アラム藻場再生への挑戦を推進しています。

伊勢湾口部に位置する 答志支所青壮年部 浜口輝満は、アラム藻場再生への挑戦を推進しています。

第63回全国漁港漁場大会出席来賓一覧（順不同、敬称略）

水産庁漁港漁場整備部長	橋本 牧
水産庁漁港漁場整備部計画課総括課長補佐	三上 信雄
水産庁漁港漁場整備部整備課助成係長	池谷 貴代子
水産庁漁港漁場整備部防災漁村課企画係	金本 晃二
(社)大日本水産会専務理事	重 義行
(社)全国豊かな海づくり推進協会会長	服部 郁弘
(財)日本海洋リザー安全・振興協会振興事業部長	中村 貢
(財)漁船海難遺児育英会専務理事	佐藤 信三
漁船保険中央会会長	上野 新作
漁港漁場新技術研究会会長	坂井 淳
(一社)全日本漁港建設協会会長	長野 章
(財)漁港漁場漁村技術研究所理事長	影山 智将
(社)全国漁港漁場協会 顧問	高島 修
(社)全国漁港漁場協会 顧問	福屋 正嗣
韓国漁村漁港協会会長	房 奇 赫
韓国漁村漁港協会経営本部長	李 雄 起
韓国漁村漁港協会経営本部長次	李 竣 豪
韓国漁村漁港協会経営本部課長	金 惠 貞
韓国農林水産食品部政策補佐官	徐 尚 鉉
韓国農林水産食品部水産開発課事務官	李 相 基

【青森県】

青森県副知事	青山 祐治
平内町長	船橋 茂久
深浦町長	吉田 満
東通村長	越善 靖夫
青森県漁業協同組合連合会代表理事会長	赤石 憲二
(財)むつ小川原地域・産業振興財団理事長	細井 永
青森県漁船保険組合組合長理事	福島 哲男
青森県漁業信用基金協会理事長	植村 正治
青森県JF共済推進本部本部長	三國 優
青森県漁業共済組合組合長理事	角本 雄之
(社)青森県水産振興会会長	宮下 順一郎
青森県漁港建設協会会長	杉山 東幹

【国会議員】

衆議院議員	横山 北斗
衆議院議員	木村 太郎
衆議院議員	田名部 匡代

第63回全国漁港漁場大会祝電一覧（順不同、敬称略）

衆議院議員	江渡 聡徳
衆議院議員	大島 理森
衆議院議員	津島 恭一
衆議院議員	中野渡 詔子
参議院議員	山崎 力
(社)日本水産資源保護協会会長	川本 省自



開会の言葉を述べる奈良岡修一（一社）青森県漁港漁場協会理事（八戸副市長）



閉会の言葉を述べる吉田満（一社）青森県漁港漁場協会理事（深浦町長）

第64回大会は愛媛県で開催



次回大会開催県協会挨拶
愛媛県漁港漁場協会 会長 中畑 保一

愛媛県漁港漁場協会 会長の中畑でございます。今日は、第63回全国漁港漁場大会が、御当地青森市におきまして、かくも盛大に開催されましたことに對しまして、心からお慶び申し上げます。さて、来年開催されます第64回漁港漁場大会は、10月24日、愛媛県松山市において開催されることになりました。愛媛県での開催は三回目となりますが、四

40年ぶりの愛媛県大会

「美味しい魚を食べて欲しいけん、来年は愛媛においでぞなもし」

十年ぶりとなりますので、本県におきましては、総力を挙げて準備を整えまして、皆様方を歓迎申し上げます。愛媛県は、西日本一の標高を誇る霊峰石鎚山を頂点として東西に延びる四国山地を背景に、多島美を誇る瀬戸内海とリアス式海岸で有名な宇和海の二つの特色ある海域に分かれ、約千七百キロメートルの海岸線に百九十五の漁港が点在し、特に、波静かな入り江を利用して魚類、真珠などの養殖業は、全国第一位の生産額を誇る全国屈指の水産県であります。また、大会が開催される頃には、真っ青な秋空とコバルト色の海に囲まれて、愛媛の自

然を満喫できる季節であり、かの夏目漱石もほめ称えた日本最古の道後温泉を始め、しまなみ海道や宇和島の日本庭園南楽園など、盛りたぐさんの観光資源で、おもてなしいたします。是非とも大会参加の機会に、四国伊予路の歴史と文化を堪能し、楽しんで頂ければ幸いです。美味しい魚を食べて欲しいけん、来年は愛媛においでぞなもし。来年の愛媛大会は、全国からたくさんの方々が御参加頂きますようお願い申し上げます。次回大会開催地のご挨拶とさせていただきます。よろしく願ひいたします。

全国漁港漁場大会では、「漁船海難遺児育英募金」活動が恒例となっている。今大会においても（公財）漁船海難遺児育英会が服部郁弘副理事長（全国漁業協同組合連合会会長）、佐藤信三専務理事を先頭に、地元青森県漁連や青森市漁協の女性部の協力を得て大会会場において募金活動を行った。

多くの参加者が募金活動に応え、大会が始まる頃には多くの参加者が胸に「水色の羽」を付けていた。



恒例の「漁船海難遺児育英募金」活動



多くの方が募金に応えた

漁船海難遺児育英募金
多くの参加者が募金

歓迎レセプション



歓迎挨拶をする
三村申吾青森県知事

主催者挨拶をする
青森県漁港漁場協会代表理事
越善靖夫



挨拶する(特)韓国漁村
漁港協会の房会長



乾杯の発声をする
神山久志青森県議会議員

大会前日の10月24日の午後5時30分
から青森市の「ホテル青森」において
青森県漁港漁場協会、(社)全国漁港漁
場協会の共催で歓迎レセプションが開
催され、越善靖夫、青森県漁港漁場協
会会長(東通村長)が主催者を代表し
て挨拶、三村申吾青森県知事が歓迎の
挨拶を行った。
橋本牧水産庁漁港漁場整備部長が来

賓挨拶を行った後、神山久志青森県議
会議員の発声で乾杯が行われた。
続いて、衆議院や参議院の国会議員
の皆さん、房奇嶺特殊法人韓国漁村漁
港協会会長が来賓の挨拶を行った。
参加した関係者は、日本郷土芸能研
究保存会の皆さんによる津軽三味線演
奏を楽しむなど和やかに歓談し、大会
前日のひとときを楽しんだ。



乾杯する参加者(上)
津軽三味線の演奏(右)



歓談を楽しむ参加者



大会終了後のひととき



会場ロビーのパネル展示

会場ロビーの青森物産展示即売会



漁港視察(清水川漁港)



漁港視察(尻屋漁港)



漁港視察(八戸漁港)

特選
1席

農林水産大臣賞

特選
2席

水産庁長官賞

特選
3席全国漁港漁
場協会長賞特選
3席全国漁港海岸
防災協会長賞特選
3席漁港漁場漁村技術
研究所理事長賞特選
3席水産土木建設技術
センター理事長賞

入賞作品決定!

(注)全国漁港漁場協会と全国漁
港海岸防災協会の共催、(財)漁港
漁場漁村技術研究所と(財)水産土
木建設技術センターの協賛、水
産庁後援による2012漁港漁
場漁村海岸写真コンクールの入
賞作品が、第63回全国漁港漁場
大会の場で発表された。

同コンクールの作品審査は9
月11日に行われ、入賞作品がパ
ンフレットにまとめられて大会
参加者に配布された。

入賞作品は、特選1席(農林
水産大臣賞)1点、特選2席(水
産庁長官賞)1点、特選3席(全
国漁港漁場協会長賞、全国漁港
海岸防災協会長賞、漁港漁場漁
村技術研究所理事長賞、水産土
木建設技術センター理事長賞)
各1点、入選5点、佳作10点で
入賞者は別表の通り。

なお、入賞作品は全国漁港漁
場協会のホームページに掲載し
ています。

2012漁港漁場漁村海岸写真コンクール入賞者

入賞	題名	氏名
特選1席	海に働く生き甲斐(組写真)	河端 一二三(千葉県四街道市)
特選2席	海霧の中で	小澤 宏(神奈川県小田原市)
特選3席	イカ三昧(組写真)	菅 敦子(広島県広島市)
特選3席	ひととき	滝沢 康幸(長野県須坂市)
特選3席	屋下がりの漁村	津田 篤志(大阪府岸和田市)
特選3席	ワカメ漁を終えて	稲葉 太一郎(奈良県生駒市)
入選	シケの間に(組写真)	福田 修彦(青森県蓬田村)
入選	社会見学	小野 哲(香川県観音寺市)
入選	鯨まつり(組写真)	松井 文郎(三重県志摩市)
入選	頑張りゆうぞね!	竹村 悦子(高知県高知市)
入選	選らい	上田 一也(大阪府和泉市)
佳作	浜っ子	西田 叔弘(滋賀県大津市)
佳作	復活したワカメ作業	カマタニ ヒサト(岩手県普代村)
佳作	笑顔の海女さん	武田 敏久(青森県八戸市)
佳作	若さも厭わず	亀谷 宏(千葉県八千代市)
佳作	最高だよー	田中 和子(千葉県いすみ市)
佳作	大物ゲット	鈴木 賢治(兵庫県神戸市)
佳作	楽しい祭り	小椋 利昭(千葉県八街市)
佳作	港に憩う	下川 勝利(神奈川県小田原市)
佳作	神前昆布漁	椎野 清一(北海道釧路町)
佳作	SMILE	櫛桁 允法(岩手県久慈市)

2012漁港漁場漁村海岸写真コンクール

